

科目	理学療法学概論	担当	山田 和政	履修学年	1年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

理学療法士とはどのような職種か。理学療法学の専門科目を学ぶ導入として理学療法の定義・歴史・手段・ガイドライン、および疾患と障害・適応と禁忌などの関係、障害の諸側面(機能障害、能力低下、社会的不利)に対する検査測定・評価、理学療法プログラムとその具体的内容などの基礎を理解する。また、理学療法の分野と実際、日本における理学療法の現状、理学療法士としての哲学・倫理・適正などについても学ぶ。受講者は、理学療法に関するあらましを修得することができる。

【履修注意】

適宜、講義の中で討論時間を設けるので、積極的かつ活発な意見交換を望む。

【評価方法】

授業態度、出席状況、期末試験(筆記)にて評価する。

【試験について】

中間試験は実施しない。

再試験対象者の条件: 期末試験成績が60点未満の者が対象であるが、40点に満たない者は対象としない。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針です。2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要です。本講義では、講義毎の復習を十分に行ない、理解できなかった部分については、次の講義で積極的に質問すること。

【教科書】

書籍名: 理学療法概論テキスト改訂第3版 著者: 細田多穂(監修)、中島喜代彦他(編集) 出版社: 南江堂

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	理学療法とは	リハビリテーション、理学療法、歴史、定義、法的位置付け
2	地域リハビリテーションと理学療法士の職場	地域リハビリテーション、医療分野、保健・福祉分野、教育・研究分野、スポーツ分野、地域活動分野
3	理学療法の倫理・哲学	倫理、哲学、守秘義務と個人情報保護、説明と同意・意思決定、自己決定権の尊重
4	基礎医学と理学療法	解剖学、生理学、病理学、運動療法
5	理学療法の対象とICF／演習	自立、国際疾病分類、国際障害分類、国際生活機能分類
6	理学療法の対象とICF／演習	自立、国際疾病分類、国際障害分類、国際生活機能分類
7	運動療法の手段①／実習	運動の種類、運動方向、関節可動域訓練、ストレッチング
8	運動療法の手段①／実習	運動の種類、運動方向、関節可動域訓練、ストレッチング
9	運動療法の手段②／実習	運動の種類、訓練方法の原則、筋力強化訓練、筋持久力訓練、協調性訓練
10	運動療法の手段②／実習	運動の種類、訓練方法の原則、筋力強化訓練、筋持久力訓練、協調性訓練
11	物理療法の手段／日常生活関連用具の紹介	物理療法の手段、温熱療法、寒冷療法、電気療法、光線療法、日常生活関連用具の種類、義肢装具・福祉用具・住環境整備
12	物理療法の手段／日常生活関連用具の紹介	物理療法の手段、温熱療法、寒冷療法、電気療法、光線療法、日常生活関連用具の種類、義肢装具・福祉用具・住環境整備
13	理学療法評価	目的、流れ、観察、検査・測定、記録、統合と解釈
14	医療保険制度・介護保険制度／演習	医療保険制度、介護保険制度、保険者と被保険者、しくみとサービス内容
15	臨床実習Ⅰに向けて／実習	バイタルチェック、移乗・車いす操作
16	期末試験	1～15コマの復習・確認・まとめ